

図書館の便利な使い方

part 1 “分類”について

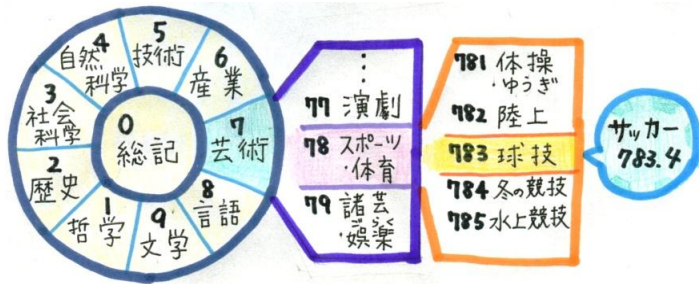


みなさんは図書館の本がどのように並んでいるか知っていますか？
図書館の本はその内容によって、ジャンルごとに「分類」されていて、
同じジャンルの本が集まり並んでいます。今回は図書館の本の並び方の
秘密「分類」についてご説明します。

分類とはどんなものなのでしょう？

図書館で使う分類とは「NDC（十進分類法）」といい、数字を使っ
て本を10個の分野にわけたものです。10個の分野とは **0総記**
1哲学 2歴史 3社会科学 4自然科学 5技術 6産業 7
芸術・体育 8言語 9文学 というものです。NDCでは10個の
分類がまた10個に分かれます、そしてさらにそれが10個におおもとの
分類から その中で細かく分かれ、様々なテーマを表しています。

例えばサッカーの本は7類（芸術・体育）のなかのスポーツ（体育）で
78、さらに球技は783、サッカーは783.4となります。



清瀬市の図書館では独自の分類もあります。

Fはフィクションで小説、Hはヒストリーで歴史、
Nは日本文学を表しています。また、ティーンズ
コーナーの本はラベルに「TEENS」と表示さ
れています。図書館で本を探すとき、検索機で調
べた後に、この分類とラベルを覚えていると便利
です。



TEENS JOY

10代のみなさんへのおすすめ図書リスト

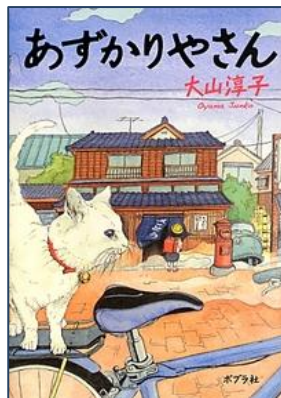


No.15 2013.10

清瀬市立図書館

あずかりやさん

大山 淳子／著
ポプラ社



一日100円。
盲目の店主、桐島透が営む「あずかりやさん」は、どんなものでも一日100円で預かります。

一通の封筒、高級自転車、遺書と様々なものが持ち込まれる「あずかりやさん」を舞台に、あずかりものに隠された秘密とそれを預けるお客様の想いが交差します…。

章ごとに語り部が変わり、その語り部それぞれの目線で語られて、ストーリーは進んでいきます。

「質屋」ではない「あずかりやさん」。こんなお店があったら…あなたは何かを預けますか？読後に心が温まる1冊です。

<野塩図書館 工藤>

自分はバカかもしれないって思うときはどれくらいあるでしょうか？でも、そのとき本当にあなたは「バカ」なのでしょうか？

バカではなくて、バカに見えているだけだったり、バカだと周りに思いつまされているだけだとしたら？

本当の自分の才能、実力に気付こう。「バカだと思いつまむこと」をこじらせないで、本当の自分の才能や実力に気づくために、著者がたくさんの「考え方のヒント」を投げかけてくれます。

<中央図書館 栗本>

自分はバカかもしれないと 思ったときに読む本

竹内 薫／著
河出書房新社



しおかぜ荘の震災

木村 航／著
双葉社



物語の舞台は三陸の介護施設「しおかぜ荘」。主人公・藤島環は、体が骨へと変化していく「ハンブティ・ダンブティ・シンドローム」を患い、入所して8年目の22歳。そんな彼女たちに3・11の大震災は容赦なく襲いかかります。

あなただったらどうしますか？自立を目指す彼女の目を通して体験する困難の数々。シリアスなはずなのに思わず笑ってしまう場面も。

決して派手ではないけれど、読んだ後にモノの見方が変わっている自分がある…そんな作品です。

シリーズ第1作『愛とカルシウム』もぜひ。

<駅前図書館 栗原>

「学歴」って何でしょう？

義務教育の中学校卒業後、95%以上の方が高校に進学し、その高校卒業後には、およそ半分の方が大学に進学する時代です。

進学・就職、果ては結婚までまわりつく「学歴」。学歴ばかり信じてダメだけど、無視もできない学歴の正体は何でしょう？

学歴社会の成り立ち、現在の大学事情、男女別学・共学の違いや、親から子に遺伝する学歴格差の問題…。大学とは何を学ぶべき場所なのかを学ぶ入門書です。

<中央図書館 伊藤>

学歴入門

橘木 俊詔／著
河出書房新社

